



独立行政法人国立病院機構  
 岩手病院 地域医療連携室  
 TEL : 0191-25-2428  
 FAX : 0191-25-2429  
<https://iwate.hosp.go.jp/>  
 地域医療連携室長 千田 圭二

## COVID-19禍に対する姿勢

「～. 何億年もかけてゆっくり進化したり、あえて生態を変えなかつたりするのも事実だけど、変わる時には、ちょっとしたきっかけで、あっさり、驚くほど速く変わる。～」

——萩原 浩：楽園の真下、  
 文藝春秋・電子書籍、  
 2019、15%

院長 千田 圭二



コロナウイルスは同じRNAウイルスでありながら、毎年のように遺伝子的に変異するインフルエンザウイルスと違って、変異を修正できる酵素を持つため遺伝子変異が起こりにくいと言われていました。しかしながら、今世紀になって相次ぐ新しい感染症の発生を考慮しますと、ヒトコロナウイルスは10年程度の間隔で大きな遺伝子変異を起こすように進化したのでしょうか？

全国的に蔓延しつつある新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、本紙が発行される頃には本県・当地をも巻き込んでいるかもしれません。本来、ヒトコロナウイルスは主に上気道粘膜に感染して風邪を引き起こす病原体ですが、この新型ウイルスは下気道にも

感染しやすくなり、急性間質性肺炎を起こして重症化させます。さらにサイトカインストームが誘発されれば致死的です。感染や発症を予防するワクチンが未開発であり、重症化の抑制やサイトカインストームに対する治療法が確立されていない現在、私たちの主要な対抗手段は地道な感染予防対策と対症療法に限られます。よく理解し、準備しておかなければなりません。

COVID-19がさらに厄介なのは、発症前にも他者へ感染させることです。私たちは自分への感染予防と同時に、自分が他者へ感染させないことを心掛ける必要があります。つまり、発熱や上気道炎症状がなくても、すでに感染していると想定して行動すべきなのです。体温測定などの健康管理、マスク装着、事前事後の手洗い、人との間隔、3つの密の回避、……。大変ですが、しっかり実践しましょう。

COVID-19禍という、いわば国家的危機にあたって、岩手病院は本来の任務である重症心身障害や重症神経難病の専門医療を維持しつつ、地域の医療機関・福祉施設・行政などと密接に連携して感染症対策に尽力しようと思います。医療資源の乏しい地域では、どこが欠けても全体に大きな負荷が掛かります。総力戦でCOVID-19に対峙しようとする今、連携の重要性があらためて認識されるわけです。敵の正体を正しく捉え、冷静に構えて、迫りつつある危機を克服していきましょう。

## 岩手病院 常勤医リスト

### 診療科

#### 脳神経内科

- 院長 千田圭二 (日本神経学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医)
- 副院長 豎山真規 (日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医)
- 医長 千田光一 (日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、産業医)
- 医長 今野昌俊 (日本神経学会専門医、日本内科学会総合内科専門医)
- 医師 小野洋也 (日本神経学会専門医、日本内科学会総合内科専門医)

#### 内科

- 医師 佐藤良太
- 医師 森 一也

#### 外科

- 診療部長 平野貞夫 (日本外科学会専門医、日本大腸肛門病学会専門医、産業医)

#### リハビリテーション科

- 医長 宮 秀哉 (日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医)

#### 歯科

- 医長 佐藤 敦 (日本口腔外科学会専門医・指導医)

### その他の部門

#### 医療安全管理

- 室長 豎山真規 (兼任)

#### 地域医療連携

- 室長 千田圭二 (兼任)

#### 栄養サポート／褥瘡対策

- 室長 平野貞夫 (兼任)

#### 臨床研究部

- 部長 豎山真規 (兼任)

#### 重症心身障害医療センター

- センター長 千田圭二 (兼任)

#### 神経筋難病医療センター

- センター長 千田光一 (兼任)

- 副センター長 今野昌俊 (兼任)

#### リハビリテーションセンター

- センター長 佐藤智彦 (名誉院長)

## 訪問看護を始めて

岩手病院では、地域で療養している患者とその家族への支援をすることを目的として、令和元年10月より訪問看護をはじめました。当院に通院されている患者さんで訪問看護を希望された方のお宅に、看護師が訪問し清潔ケア、内服管理、人工呼吸器・在宅酸素の使用方法、経管栄養の指導、精神的ケア、家族指導など行っております。

訪問看護を開始したことにより、患者さんが病気を抱えながら地域で生活するためにどのような支援が必要か、地域の中でどのようなサービスを利用できるのか、また家族の方への支援の重要性など以前よりも視野を広げ実践できるようになりました。これまでの経験を活かしながら、訪問看護の経験を積み重ねて、より良い看護を提供していきたいと考えております。

これからも、患者さんご家族の方々が少しでも安心して住み慣れた地域で生活できるよう、医師、

看護師、多職種と連携を図りながら、支援していきたいと思っております。

地域医療連携係長 佐々 知恵



訪問看護担当 晴山看護師

## 地域医療連携室より

令和2年4月より、地域の医療機関・福祉関係スタッフとの連携強化を目的として地域医療連携係長に、佐々千恵看護師長が配置されました。今までの院内外との連絡調整に加えて、訪問看護の実施・退院前後訪問などにも取組んでいきます。地域医療連携室に常駐となりますのでいつでもご連絡下さい。

また人事異動に伴い、1病棟（神経・筋難病病棟）看護師長と地域医療連携事務助手の2名が加わり、連携業務がより一層円滑に進むように取組んでいきます。どうぞよろしく願いいたします。

入退院調整会議は、毎週木曜日 8時30分より行っております。リハビリテーション目的の転院やレスパイト入院などの相談につきましては、地域医療連携係長またはMSW（竹越・鈴木・鳥畑）までご連絡ください。



左から順に、佐々看護師長 宮澤看護師長 山田連携事務助手

※岩手病院公開セミナーは、しばらくの間お休みいたします。

